

第 22 回日本木材学会地域学術振興賞
「静岡地域における地域材利用技術の研究・開発および
木材産業への成果の普及に関する貢献」

この度は、栄えある地域学術振興賞をいただき大変光栄に存じます。御推薦いただいた、また御選考に当られた先生方に深く感謝申し上げます。また、これまで、研究開発と技術普及で御指導、御協力いただいた諸先生方、企業団体の皆様、職場の上司、同僚に感謝するとともに、喜びを分かち合いたいと思います。

これまで、静岡県に採用されて以降、木材利用、特に地域（県産）材の利用に向けた技術開発に永年に亘り従事してきました。以下に、これまで手掛けてきた研究・開発やそれら成果普及の概要を紹介することで御礼に代えさせていただきます。

製材工場をはじめ県内木材産業の各生産現場はもとより、林業、住宅産業への現場に出来る限り出向くことで、各業界の狭間にある解決すべき課題（問題点）に目を向け、現場に成果を還元することを意識して取り組んできました。具体的には、スギ・ヒノキ乾燥材の供給促進に向けた乾燥で生じる割れの強度に及ぼす影響や、立木から木材製品に至る含水率分布の変動、および林業施業や林木育種と木材材質との関連性の解明などに取り組みました。それら研究成果を分かりやすく伝えるリーフレット等を作成して、各現場に出向いて情報提供や普及を行う“出前講座”を行ってきました。その過程において、県内企業・団体との共同研究により、原料・製品の材質検査・評価に必要な装置や県産材を原料とした住宅部材等の開発を行ってきました。

一方、品質・性能の確かな製材品や木質材料の安定生産と木造住宅への利用促進（主に柱、造作材、面材）を図るため、行政、民間企業団体と連携・協働して、「しずおか優良木材認証制度：平成 14 年」を立ち上げに関わるとともに、その後の制度運営等に際して、技術アドバイザーとして審査会や工場からの技術相談等に対応することで、地域材の利用促進に関与できたと思っています。

近年では、産官学が連携して実施する新成長戦略研究「木造建築用材を外材から県産材へ転換する製品創出技術の開発」（平成 23～25 年）に取り組み、今後供給の増加が見込まれるスギ中・大径原木の材質特徴を活かし、外材の使用比率が高い梁桁を県産材に転換するため、原木段階で電磁波等の新たな手法による水分量（含水率）とヤング率（強度）の評価に基づき、品質・性能の確かな梁桁製品の原料として選別が行える“原木グレーディングマシン”や新たな梁桁用集成材製品“スギ積層接着合わせ梁（以下、合わせ梁）”の開発と現場への普及を手掛けてきました。

振り返ってみると、地域（静岡県）の木材産業の振興への貢献については心許ない点も多く、今回の受賞は今後より貢献するための叱咤激励と思っております。このため、今後とも、将来を見据え地域森林資源の活用促進に貢献するように努めていきたいと思っております。今後とも、引き続き木材学会の皆様からの御指導を賜りますよう、お願いいたします。